

畑作

次期作に向けた事前準備を!!

今年は7月14日に発生した大雨に続き、8月の猛暑・干ばつの影響で、農産物の生育は極端に遅れ、冠水被害や病害虫の多発等、収量に多大な影響を及ぼしました。地球沸騰化が叫ばれる中、来年は大雨や猛暑が来ない保証もありません。そのため、下記を参考にしながら次期作に向けた準備を行いましょう。

1. 畑の選定

- 畑の環境、周囲の状況を把握することが大切。
 - ・新しい畑の選択 → 前作は何か、作柄は？雑草の発生状況は？
 - ・連作するならば → 連作何年目？生育状況、病害虫発生状況は？
- 土壌分析を行い、土壌改良資材の投入量目安を把握する。

2. 排水対策

- 排水性の良い畑を選択する。
- 降雨後、いつまでも残っている場合は排水対策が必要。
 - ・表面排水（額縁明渠）
 - ・本暗渠＋補助排水
 - ・耕盤の改良 → 物理的（機械的）破碎。サブソイラ系の破碎機器（深層破碎）
- 暗渠等から排水した場合、水が抜ける排水路が必要。

規模拡大に伴い、機械化や労働力確保に目が向きがちですが、一番重要なのは畑の選定と土づくりです。また、生育不良や病害虫の発生、不意な自然災害等に対処するためには、知識と経験の積み重ねが必要となりますので、2月開催予定の冬期野菜栽培講習会に是非ご参加下さい。

白神ねぎ

- 長ねぎ栽培について
- 越冬早取り苗の管理ポイント
 - ・温度管理
 - 本葉1枚展開しているので、ハウス内10℃前後に保ちます。

12月下旬以降、外気の最低気温がマイナスと予想される場合は、夜間のみトンネル被覆をする。
 ※余計な被覆は、軟弱徒長やカビ発生の原因となるため注意。
 ・水管理
 12月以降は、培土が乾きにくくなっているため、灌水の間隔は培土の乾き具合をみて行います。
 灌水は日中に行い、温度が低下する夕方は避ける。

白神山うど

- 山うど栽培について
- 12月に入り、ハウスへの伏せ込み作業が本格化していますが、品種特性と伏せ込み時の留意点を把握し、収穫に向けて万全な作業を行って下さい。

・伏せ込み床は、ハウス内に融雪水が入らないよう明渠などで排水対策を万全にする。
 ・伏せ込み後、加温を開始してからは温度管理に十分注意して下さい。芽の位置に温度計を設置し、芽が動くまでは20℃以下で管理し、芽の動きが確認されたら18℃～15℃と徐々に温度を下げるよう管理し、高温による腐敗が出ないように、こまめに温度を確認して下さい。

白神きゃべつ

- きゃべつ栽培について
- 次年度の種子・苗の部会員用注文書が配布されています。

す。締切日が過ぎておりますので、まだ提出されていない部会員は、速やかに提出して下さい。
 次年度の新規作付者も大募集しています。作付希望者は営農企画課までお知らせ下さい。

稲作

営農情報

～令和5年産米の作柄及び集荷状況をお知らせします～

◆ 令和5年産米集荷実績状況 ◆

【令和5年11月30日現在】 【単位：60kg/俵】

地区別集荷実績	計画数量	契約数量	集荷実績	1等米比率	計画対比	契約数量対比
のしろ東	60,200.0	57,316.5	48,715.0	70.4%	80.9%	85.0%
のしろ北	85,400.0	82,908.0	74,063.5	73.6%	86.7%	89.3%
能代計	145,600.0	140,224.5	122,778.5	72.3%	84.3%	87.6%
ニッ井計	58,000.0	57,377.0	46,695.5	72.5%	80.5%	81.4%
藤里計	36,400.0	36,704.0	29,690.0	45.2%	81.6%	80.9%
白神合計	240,000.0	234,305.5	199,164.0	68.7%	83.0%	85.0%

※1等米比率は、加工用米等を除いた比率となっております。

◆ 管内の品質状況 ◆

今年の管内の収穫量は平年と比較して㎡あたりの着粒数は平年よりかなり少なくなりました。また、1等米比率の平均は68.7%（11月30日現在）と形質（充実度不足等）や被害粒（胴割れ粒等）が前年に比べかなり多く、落等理由における割合も高くなったことから、前年より26.0%低下となりました。

◆ 水稻作柄概況と次年度対策 ◆

東北農政局秋田県拠点統計チームが公表した、水稻の作柄概況によると、県北地域の作況指数は96の「やや不良」でした。6月の日照不足や7月の大雨による水田の被害、8月の記録的猛暑による干ばつなどが影響し、10月25日現在における水稻の作柄は、全もみ数が平年に比べやや少なくなったことから、登熟（もみの肥大、充実）は順調に推移したものの、10a当たりの予想収量は秋田県で552kg（県北は530kg）となり、昨年に続いて「やや不良」となりました。

近年は気象変動が激しく、毎年異なる気象条件のため、安定した収量や品質の確保が難しくなっています。高温や乾燥、大雨などの異常気象条件下でも高品質・良食味米を安定的に生産するためには、水稻栽培に適した圃場の選定と土づくりが必要です。安定した収量・品質を確保するためには、健苗育成、適切な田植え作業、生育ステージや気象条件に適した水管理等の耕種管理を今一度見直しましょう。

〈図〉作柄表示地帯別10aあたり予想収量（10月25日現在）

秋田
552kg



令和5年産水稻の10aあたり予想収量及び作柄概況（10月25日現在）

区分	10aあたり予想収量①	農家等が使用しているふるい目幅で選別			作柄概況(平年比較)				
		10aあたり予想収量②	10aあたり平均収量③	作況指数④=②/③	穂数多	1穂当たり多	全もみ数多	登熟良	否
秋田	552	524	542	97	少ない	やや多い	やや少ない	やや良	
県北	530	505	525	96	少ない	やや多い	やや少ない	やや良	
県中央	542	512	539	95	少ない	やや多い	少ない	やや良	
県南	571	545	554	98	少ない	やや多い	やや少ない	やや良	

注：1 ①10aあたり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
 2 ②10aあたり予想収量、③10aあたり平均収量及び④作況指数（10aあたり平均収量に対する10aあたり予想収量の比率）は、過去5か年間（平成27年度～令和元年度）に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（秋田県は1.90mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
 3 作柄概況（平年比較）に用いた表示区分は、「多い（良）」が106～102%、「やや多い（やや良）」が105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや少ない（やや不良）」が98～95%、「少ない（不良）」が94%以下に相当する。